



寒天を通じて、海の課題などを学んだ子どもたち=愛知県南知多町篠島

寒天を通じて海を学ぶ

海と日本プロジェクト in 岐阜県とは
日本財団が推進する「海と日本プロジェクト」の一環。一般社団法人海と日本プロジェクト岐阜(事務局:岐阜放送)が中心となって、海への関心を高め、海の課題を自分事として考えるきっかけとなる取り組みを行っている。

「海なし県」で暮らす岐阜県の子どもたちが、寒天の原料である海藻を切り口に、海の課題などを学ぶ体験学習「海に恋する岐阜キッズ 寒天から海を学ぶ隊」(一般社団法人海と日本プロジェクト岐阜主催)が8月22、23の2日間行われた。県内の小学5、6年生20人は、恵那市山岡町の細寒天製造会社を見学したり、温暖化による海藻の減少など、海の課題について学習したりした。

(取材/野口晃一郎)



天日干される細寒天



天筒でよしずの上に突き出す作業を体験する子どもたち
=いずれも恵那市山岡町、丸三寒天冷凍部

学び隊が最初に訪れたのは、細寒天の全国シェア約8割を占める恵那市山岡町。寒天工場「丸三寒天冷凍部」では、原料となる海藻「テングサ」を煮る直径2.5m近い釜や、零下25度で凍らせ夏場でも寒天を作ることができる冷凍庫、屋外の干し場などを見学。ようかん状のところてんを天筒でよしずの上に突き出す作業も体験した。「寒天がするつと出てきて気持ちよかった」「道具が重くて作業は大変だと思った」など、貴重な体験を振り返った。

三浦仁憲社長は、寒天作りに必要な「凍る」「溶ける」「乾燥する」という3つの条件を紹介。山岡町で製造が盛んな理由として▽気温が氷点下3度以下になる▽日中5度以上になる▽雨や雪が少ないことを挙げた。一方、近年は冬場でも凍らない日が増えてきていることや、テングサの採れる量が減り、値上がりしているという現状にも触れた。

細寒天の一大産地 恵那市山岡町へ

寒天尽くしのごちそう



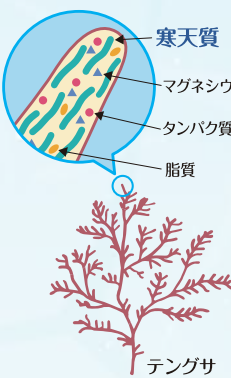
昼食は、明知鉄道の山岡駅かてんかんで、寒天料理を満喫。定番の「ところてん」や「寒天らーめん」をはじめ、寒天でできた巻き寿司、地元名物の五平餅などを味わった。

「黒潮の蛇行により、海域の環境が変化!?」
テングサが採れる場所は、千葉県から九州北部にかけて広がる太平洋ベルト一帯。潮が一番引いた海水面から水深15mほどに生息している。テングサに含まれる寒天質という成分が寒天になるため、テングサがどんな海で育ったかによって寒天の出来に違いがあることを紹介した。その上で、近年は黒潮が紀伊半島以南で蛇行しており、その影響で「海の温度や栄養分が変化し、テングサの量が減少しているのでは」とし、「(黒潮の蛇行により)海域に冷たい海水が湧き上がり、生育しにくい状況になってきているかもしれない」と指摘した。

温暖化がノリ養殖に影響

愛知県水産試験場 漁業生産研究所 技術士(水産部門)・環境カウンセラー 阿知波英明さん

温暖化による影響について、水温が23度以下から始まるノリの養殖時期に触れ、「夏から秋にかけて水温が高く、水温が下がる時期が遅れて、養殖の開始時期が1カ月ほど遅くなっている」と説明。海がきれいになりすぎて海の栄養も減り、焼きのりなどの品質にも影響している」と話した。また、水温が上昇した数年後には、海藻が育つ藻場の面積が急減していることも指摘。「海を埋めたり掘ったり、人間にとつて都合の良い海に変えてきたため、海藻などが減り、魚の移動などにも影響が出ている」と話し、「いつまでも魚や海藻などが食べられるように何ができるか、考えて行動しよう」と伝えた。



消えたアイナメ 捕れる魚に変化

漁師 小久保長門さん

海水温の上昇により、海の中の海藻が少なくなり、魚も減っている実状を紹介した。その中で、「以前は捕れていたアイナメはほとんどいなくなった。一方で、クラゲだけが増え、重み



焼きのりを食べ比べる子どもたち

理想の海の姿を思い描く

参加した子どもたちは、2日間の学習成果をポスターにまとめた。テングサや魚が生活している豊かな海など、印象に残ったことを画用紙に描き、自然の大切さを表現した。発表では「温暖化は人間にとっては小さな変化でも、海の生き物は大きな影響を受けていることが分かった」などの声がかかった。芥見小5年の高橋佳恋さんは「海は適温で、ごみが少なく、栄養もたっぷりある状態が大切なのだと分かった。ごみ拾いなど身近でできることから実践していきたい」と振り返った。2日間の学び隊に同行した県環境教育推進員の伊藤允人さんは「山から湧き出た水は川を流れて海へとつながり、循環している。後世に残すために、できることを考えていくことが大切」と結んだ。



作品がラベルシールになる「寒天らーめん」と「琥珀糖」

今回、学び隊の子どもたちが描いたポスターは、明知鉄道の山岡駅かてんかんや山岡町の道の駅などで販売されている「寒天らーめん」と寒天菓子「琥珀糖(こはくとう)」のラベルシールのデザインに期間限定で採用されるほか、10月21日から1カ月間、同鉄道の車内に展示される。



学んだことを発表



2日間の学習成果をポスターにまとめる子どもたち =いずれも岐阜市橋本町、岐阜シティ・タワー43